

Information

祝20年、「山脈ニュース」が発刊240号に達しました！

特定非営利活動法人山脈の会報誌「山脈ニュース」が240号に達しました。「山脈ニュース」は月刊ですので初刊より20年が経ちました。平成15年8月の初刊号は特定非営利活動法人山脈の発足前で、その前身となる三山家族会が運営していた「みやま作業所」の会報誌「みやま作業所便り」としてスタートしました。そして、平成16年2月に特定非営利活動法人山脈の創立後に「山脈ニュース」と名前を変えて今日に至ります。

一回も途切れず20年間も発刊できたことは我ながらビックリします。個人的なことを通じて20年も毎月欠かさず続けていることが思いつきません。不思議なことに毎回、記事のネタ探しに苦労した記憶はあまりなく、その都度、山脈の活動を通じて皆様にお伝えしたい思いや出来事などがありました。法人や各事業所の活動の紹介に合わせ、自由気ままに山脈の活動を通じて感じたことやこれから法人で取り組みたいことなど書き綴ってきました。

毎月、群馬県内を中心に障害福祉関係者、医療関係者、行政、その他、山脈の支援者等に360か所余り発送させて頂いています。おかげさまで色んなところで「いつも読んでいますよ」というありがたいお言葉を掛けて頂くことがあります。インターネットの時代になり紙媒体の会報誌なんて時代遅れと思われるかもしれませんが、「継続は力なり」、なかなかどうしてまだまだ宣伝効果があります。これからも途切れることなく発刊したいと思います。そして、次の世代にこの「山脈ニュース」を引き継ぎたいと思います。(笹澤賢一)

新年度(令和5年)度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口 2,000 円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発行

特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 賢一

住所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2 (みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」
就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」
就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」
グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO
法人

山脈ニュース

2023.7

No.240

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、特定非営利活動法人山脈は、5月31日をもって理事長を退任された笹澤繁男に代わり、笹澤賢一を6月1日より理事長に任命しました。

今後も特定非営利活動法人山脈は、新しい理事長と役職員とが一丸となり、利用者の皆様、そして地域の皆様のご期待に応える存在であり続けられるよう、微力ながら最善を尽くして参りますので、今度ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。略式ながら書中をもちましてご報告申し上げます。

謹白

令和5年6月吉日

特定非営利活動法人山脈
理事一同

次世代へとつなぐべく、持続可能な法人への変革が私の使命です！

最近よく、「会社の寿命は30年」という言葉を耳にします。私が社会人になった30年程前は「会社の寿命は50年」とも言われました。これは単に会社にも人間と同じように寿命があり、30年で会社が終焉を迎えるということではありません。これは企業がその繁栄のピークを謳歌できる期間はわずか30年程度に過ぎないことを言い表している言葉です。

時代の変化、経済や社会の変化、技術の進化による産業構造の変化のサイクルが早くなり、ひと昔前は50年、そして、今やそのサイクルが30年と縮まってきている中、その変化に対応せず何も変わらなければ繁栄は維持できず、やがて衰退していくしかないということです。

反対に幾多の時代の荒波を乗り越え、その繁栄を長期間に亘り維持してきた会社は、その変化に柔軟に対応し、変革を繰り返し、また、生産性や効率化を追求することで生き残ってきました。

一見、こうした考えは営利目的の企業の話であり、福祉業界には関係ないように思えます。「福祉は人」とも言われ、人が人を相手にするサービスであるため、そこに生産性や効率化を求めることはタブーとされるイメージがあるように思います。しかし、私はよりサービスの質の向上を図るためには、福祉こそ生産性・効率化が求められていると思います。

福祉の現場では職員の低賃金、慢性的な人材不足、高い離職率などが深刻な問題となっています。私は福祉の仕事に希望を抱き入職した職員が福祉の仕事に専念できるように労働環境を整え、処遇改善を図りたいと思います。そして、福祉サービスの質の向上を図り、差別化を図ることで厳しい時代や社会の荒波を乗り越えて行ける法人にしなければと思います。

また、私は「障がいがあっても安心して暮らせる社会の一助になりたい」という法人設立の理念を次世代に継承しなければなりません。そして、利用者を主体に据え、利用者の人権を擁護することが私たちの大切な職務であることを山脈の理念として定着させたいと思います。理念とは普遍的でありどんなに時代や社会が激変しようと法人の指針を示すものだと考えます。そのための人材教育がとても重要だと考えています。

山脈は創立から19年目を迎え、来年は節目の20年となります。つまり、会社の寿命30年の3分の2が経過します。そして、創立より山脈を牽引してきた笹澤繁男理事長が退任し私が6月より山脈のバトンを受け取りました。私は定年まで10年を切りました。残りの10年で、山脈を次の世代に引き継ぐべく、社会の変化があろうともその荒波を乗り越え、持続可能な法人に「山脈」を変革することが私の使命と考え、与えられた任務に邁進して参ります。今後も温かいご支援とご理解を宜しくお願い致します。

理事長 笹澤賢一

【きょうされんレポート】

きょうされん第46回総会に参加してきました！

5月24日（水）、13時より東京都千代田区にある日本教育会館にて開催されましたきょうされん第46回総会に参加してきました。群馬支部からは、職員代議員として澁澤支部長さん（くわのみ）、利用者代議員として中嶋健斗さん（みやま工房）、更にサポート職員として小野さん（みやま工房）と事務局長である私（みやま工房）の4人が参加しました。

総会では1号議案から8号議案が審議されました。採択は、全国の支部から選出された職員代議員と利用者代議員がオレンジの代議員証を掲げて意志を表示します。中嶋健斗さんも群馬県の仲間を代表し、しっかりと代議員を務めてきました。

また、途中には全体討論がありました。指定発言ではきょうされんのビジョン2027の作成委員を務めた澁澤支部長さんが発言しました。自由発言では中嶋健斗さんが率先して手を挙げ、「みやま工房で仕事を頑張っていること」、そして、「夢があること」を発表し賞賛の拍手が会場から起こりました。また、斎藤理事長さんから、「もしよかったらどんな夢か聞かせてもらえますか？」と聞かれると、「プライベートなことなので勘弁してください」と答え、会場の笑いを誘いました。

全体討論では多くの利用者の方が発言しました。中には緊張して言葉が出なくなってしまった方もいましたが、どんな発言にも会場がしっかりと受け止める雰囲気、「仲間を活動の中心に置いて」というきょうされんの精神を感じました。

総会は13時から休憩を挟みながら19時までの長丁場でしたが、中嶋健斗さんも最後まで集中が途切れることなく頑張りました。本当に長い1日、お疲れ様でした。



総会の翌日は第46次国会請願行動に参加してきました！

総会から一夜明けた5月25日（木）、10時に国会議員会館に全国の支部から300人を超える会員事業所の職員さん、利用者さん達が集結しました。今日は昨年12月から全国展開された第46次国会請願署名運動で多くの方々からご協力を頂いた57万筆を超える署名が書き込まれた署名用紙の束を紹介議員になって頂いた国会議員さんに届ける国会請願行動の日です。66班に分かれ、衆議院第一議員会館・第二議員会館、参議院議員会館にいる700人以上の国会議員さんを訪問します。

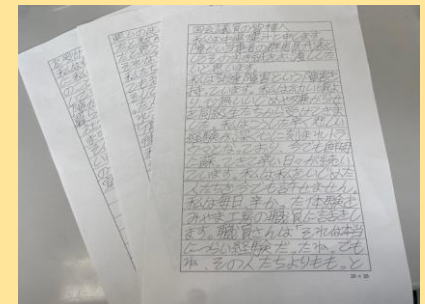
私達、群馬支部の班は群馬県選出の10人の国会議員さんを訪問します。今回、自由民主党の中曽根弘文参議院

議員さんと公明党の福重隆浩衆議院議員さんから事前に紹介議員の承諾を頂いていましたので、各2000筆の署名を預けしてきました。どちらもご本人はご不在でしたが、秘書の方に多くの人達の願いが託された署名の束の中嶋健斗さんから手渡してもらいました。また、今回、残念ながら紹介議員になって頂けなかった8名の国会議員さんも訪問し、署名に関する資料を届けてきました。資料には中嶋健斗さんに書いてもらった手紙と中嶋健斗さんが大好きなアニメキャラクターのイラストを描いたメッセージも添えました。両日を通じて中嶋健斗さんが大活躍しました。この請願行動を通じて障がいを持たれた方々とその支援者の皆さんの思いが国会の政策に反映することを願います。



国会議員の皆様へ

私は中嶋健斗と申します。
みやま工房の職員さんと一緒にお手紙を書きました。
障がい当事者の群馬県代表としてそのお手紙をお渡ししたいと思います。



私は発達障害という障がいを持っています。
私は幼い頃より、心無いいじめや嫌がらせを同級生たちから受けてきました。
私はこうした辛い経験が深く心に刻まれトラウマとなっており、今でも鮮明に蘇ってきて辛い日々が続いています。私は私をいじめた人たちを今でも許せません。

私は毎日、辛かった体験をみやま工房の職員に話をします。
職員さんは、「それは本当につらい経験だったね。でもね、その人たちよりもっと悪いのは、障がい者は劣った人だと教えてきた社会や国だと思うよ」と言われました。
それは「優生思想」という私たち障がい者にとってとても恐ろしい考えです。
そして、日本には障がいを持った人は劣っているから生まれてこないようにしようという「優生保護法」という法律があったそうです。
私は相模原事件のことを書いた本を読みました。
相模原事件の犯人もその「優生思想」の影響を受けて、「障がい者は世の中に要らない」と考え、多くの障がい者の方を殺したそうです。また、戦争中は障がいのある人は戦争に役に立たないと差別を受けたそうです。

私は毎日、今でも子供の頃に私のことをいじめた人たちのことを思い出してとても辛いです。
だから、一刻も早く障がいがあっても安心して暮らせる偏見や差別のない社会にして欲しいと思います。

そして、私は平和を愛しています。
人が人を殺す戦争のない世界にして下さい。

宜しくお願いします。

令和5年5月25日
群馬県代表 中嶋健斗